



き ず な

第7号

[発行]
市民運動園田地区推進協議会
尼崎市御園1丁目23-8(園田庁舎)
[お問合せ先]
公益社団法人尼崎人権啓発協会
尼崎市東七松町1丁目23-1(市役所本庁内)
電話 06-6489-6815

若王寺連協について

若王寺社会福祉連絡協議会 会長 今西 誓

若王寺地区には、1955(昭和30)年頃から「親和会」という町内会が設けられていました。当時は高度成長時代で、尼崎市は阪神工業地帯の一翼を担っており、工場が市内一円に点在していました。だが、当地区は農村地域で一帯に水田が広がっていました。1965(昭和40)年頃から区画整理事業が実施され、その風景は大きく変貌し、徐々に住民が増え始め、既存の農会、お寺(檀家)、神社(氏子)ではなく、地区住民をメンバーにした町内会の存在が重視されるようになりました。

町内会では、街灯設置、消火器配置などの課題を解決するとともに、行政に対して公園や道路、信号機設置などのインフラ整備を要望してきました。

入会を歓迎するため、会費は月額50円(現在月額100円)とし、会員へのメリットもそれなりに配慮しながら、現在会員数は約1800所帯で、特別な所帯を除いては入会してもらっています。

小中島連協と連携し活動の拡大を
町内会とは別に、地域推進委員会、自主防災会、婦人防火クラブ、小学校区の関係で、スポーツクラブが二つあります。老人会、子供

会をはじめ消防団や婦人会ともども手を携え、地域の安寧秩序に努めています。また小中島連協とともに、「さわやかあいさつの会」があり、地区内の学校、企業の協力のもと、あいさつ運動を推進しています。

地区には、町内会以外の団体が存在しませんでした。他地区に合せて社会福祉連絡協議会に改組し、その中で単組といわれる福祉協会が3カ所あり、全体でフォローしています。

若王寺連協では「見守り活動」と「防災対策」に力を注いでいます。見守り活動では、対象者が約100人おり、民生児童委員の方々と協力して見守りを行っています。防災活動では、年一回の防災研修会と、防災打ち合わせ会議を随時実施しています。

今年コロナの関係で中止になりましたが、防犯グループと共同で小学生を対象とし、不祥事防止のため、東警察署指導のもと防犯の集いを実施しています。

町会、連協との運営に携われた先輩方のご尽力に感謝いたしますとともに、まだこれから改善すべき課題があり努力してゆく所存です。

福祉の仕事をする前は、民間の電機会社で30年近く、鉄道車両品を製造する仕事に携わってききました。入社時に学んだ言葉は、「一路」まっすぐに「ぶれる」ことなく「バランス」をとり、支え合い、より良い品質と人質(じんしつ)という合い言葉のもとに、社会に貢献することです。

また、人材とすべてのことに磨きをかけ奉仕の精神をモットーに励んできました。この精神を一身に秘めて、鉄道車両品の仕事で全国を駆け巡り、民間会社で培った経験を手土産に、1989(平成元)年3月末日に退社するとともに、4月から社会福祉法人田能老人福祉会に入職し、今年で32年間の勤務となりました。現在も、継続は「力」なりの一言で元気に日々「春

「保護司」ってどんなことするの? ~保護司の役割を少しPR~

尼崎市保護司会 園田分会 保護司 福山 久美

保護司になり、初めての少年を担当した時に、「なんで保護司してるん?」「で、保護司で給料はいくらもらえるん?」と聞かれた。わたし「えっ?お給料なんてないよ。私たちはボランティアだよ」少年「なんでただ働きするん?」わたし「保護司になった理由は、ひと言では言えないからおおい話すね」といったやり取りをしたことがあります。

いろいろな理由で罪を犯した少年や少女たちが、再び社会の一員として各々の地域で暮らせるように、サポートの一端を担うのが私たち保護司の役割です。定期的に会って、家族のこと仕事のことなど話をしながら、少しずつ互いのきずなを結んでゆくことが大切です。

保護司の願いを届けたい
会う約束をしていてもその時刻にやって

来たことがない少年がいた。何度腹立たしい思いをしたことか。けれど、そんな少年も、早朝を苦にせすきちんと起きて仕事に行くという様子を見ていると、思わず「ガンバレ!」と応援したい。ゆっくりでいいから、仕事の大切さを知り、その仲間や地域とのつながりを持つてほしいと願う。皆さんは「更生」という言葉をご存じだと思います。辞書を引くと「もとの良い状態にもどること」とあります。世の中に、生まれながらの犯罪者はいないはず。これまで生きてきた中で、どこかで道を間違ってしまったけれど、もう一度やり直したいと思う人たちがいる。そんな人たちを少しでも手助けし、一緒に悩みながらも伴走していきたいと考えているのが、私たち保護司。

役割はもつとあるけれど、今回はほんの一部を紹介しました!

私の人生のレールは

「つながり」「どこまでも」「いついつまでも」「つながぎ」つながぎ

社会福祉法人田能老人福祉会 春日苑 理事長 奥村 清臣



日苑」に勤務しています。

「ありがとう」の一言をいただける施設に

さて、春日苑の32年間の「ヒモ」解きをしますと、民間会社社に在職時の1975(昭和50)年後半より、高齢齢社会が押し寄せることが尼崎市議会でも取り上げられていました。その対策として既存の2施設(特養)だけでなく第3番目の特養の新設が急務となり、市内で建設者の土地提供(無償)と建設費の一部負担による懇請が関係者からありました。当法人が建設用地の全無償提供と建設費の一部負担を寄付することで、1987(昭和62)年度から「田能の地」に市内第3番目の特養の建設が決

まり、私も民間会社の在職中でしたが手伝うことになりました。1989(平成元)年7月1日「春日苑」を開苑し、同時に職員の採用の確保と入所者50名の満所まで培ってきた「ぶれない」「レールのバランス」と根幹が腐らないよう、見守りつづけてきました。その結果が今日であり、「今日も、明日も、その先」までも「春日苑」の存続を、風評に惑わされることなく、福祉の路をまっしぐらに歩みつづけ、地域の方々に「ありがとう」の一言をいただけるように、私の残り4分の1を全力の投球で尽力しますので、よろしく願います。

「小園小学校の人権教育の取り組み」

尼崎市立小園小学校 人権教育担当

本校は、「認め合い 支え合い 高め合い」こどもの主体的な取組を重んじ、子どもが生き生きと活動する学校」という学校教育目標のもと、「①思いやりに満ちた子 ②存分に力を発揮する子 ③のびのびと活動する子」の育成をめざして「ここにこ」「こっこつ」「ぐんぐん」を小園っ子の合い言葉に、日々の教育活動に取り組んでいます。その中でも重要な位置づけである「人権教育」の全体目標は、「自他の人権を尊重するとともに、社会の中にある偏見や差別を正しく認識し、仲間を大切にし、差別のない明るい社会を実現しようとする意欲と行動する力を持つ児童を育成する」です。

「全校一斉人権授業」

学校公開に合わせて、全校一斉の道徳授業を行っています。普段から各教科や特別活動等あらゆる機会を捉えて人権教育を行っています。学校公開時に人権について考える道徳授業を行うことで、保護者の方にも子どもたちが人権についてどのように学習しているのかを見ていただき、家庭でも人権について話し合う時間を作っていただくきっかけになればと思っています。



「人権週間の取り組み『いいところ見つけ』」

一人ひとりが人権について改めて考え、見つめ直す機会として人権週間を設けています。昨年度は、自分や友達の良さに気付く、その良さを認めて大切にしようとする心を育てるために、「いいところ見つけ」という活動に取り組みました。自分の良いところを改めて考えたり、友達から自分の良いところを伝えてもらったりする活動の中で、子どもたちは、照れながらも嬉しそうにしており、良い表情で活動に取り組む姿がたくさん見られました。これからも、このような活動を通して、子どもたちの自尊感情の育成につなげていきたいと思っています。

今回紹介させていただいた取組は2つですが、これからも、日々の教育活動を通して、子どもたちの人権意識の向上に取り組んでいきます。また、学校だけでなく、家庭や地域の方々との連携を図りながら人権教育を進めていきたいと思ひます。

地域とともに

民生児童委員 小川 満津美

この地域に暮らし始めて40年以上です。町内会のことは義母がしていたので、私は、ご近所の方の名前も顔も知らないまま民生児童委員を引き受けました。町内で、歳を重ねた方が、少しずつ物忘れがひどくなつてご近所トラブルにまで発展したり、児童虐待の通報があったときは、その家の近くを何度通つて様子をうかがったり、お金を借りたいと家に来られることもあり、いろいろな体験をする中で、一人では解決出来ないことも多くの方に教えてもらいながら活動をしています。

教え合い、助け合い、笑うことを大切に

2008(平成20)年に当時の町会長、民生児童委員3名で地域サポート事業を始めてから、今年度で13年目を迎えました。民生児童協力委員6名に

ボランティアとして入ってもらい、サポートの対象は、65歳以上の一人暮らしの方と昼間ひとりになる方です。会員の中からヨガ、気功、民舞、手芸をスケジュールに入れたり、ボランティアグループによる手品、落語、オカリナ、フラなどのお楽しみ会を開催したり、季節を感じながらハイキングをしたり、日帰りバス研修旅行などの行事と月一回の手作り会食も楽しみにしてもらえました。民舞は今でも高齢者施設のお祭りや地域の秋まつりに参加してもらっています。

今後も、この難しいコロナ禍の中ではありますが、コミュニティの場としてお互いに教え合い、助け合い、笑うことを大切に思つてくださるよう、いろいろな形で楽しみながら続けて行けるよう願っています。

「地域で暮らし続ける、その為に必要なこと」

特定非営利活動法人 やじろべえ 理事 仲原 大輔

「福祉会やじろべえ」は、特別支援学校の卒業後も生まれ育った地域で活動し、暮らし続けたい!というご本人やご家族の思いから1998(平成10)年に発足しました。約22年間園田地域で活動をし、年月が経つた今も「障がいがある人も地域で暮らし続けたい」という当事者さんたちの思いに寄り添い活動させていただいております。

具体的活動としては、「ぐるりあ」(障害者総合支援法に基づく就労継続支援事業B型)という日中活動の支援を行う事業所の設置や「すりーる」(障害者総合支援法に基づく居宅介護事業・移動支援事業)という日常生活に必要な支援を行う事業所の設置、運営を行っています。そのほかに法人本部として、地域で行われる催しなどに積極的に関わらせていただいています。

なぜ「地域で暮らし続ける」ためにこれらの活動が必要なのか。それは、自分たちの活動の場を自分たちの生まれ育った地域に作るという、大きな目的もあります。私たちのことをもつと知っていただきたいという思いがあるからです。

なぜ知ってもらう必要があるのか。それは「障がい」というものを地域の方々に

知ってもらうことによって私たちが抱えている多くの課題を解決の方向(理解)へと向けることができ、少しでも障壁を減らすことができるのではないかと感じています。

障がい者問題からの地域づくりに

人は自身が「理解できないもの」を本能的に恐怖と感じ無意識下で排除しようとしています。もしそれが事実であれば「障がい」というものがその「理解できないもの」であつてはならないと思いますし、そのことが地域で暮らし続けることへの大きな障壁の一つとなることは明白です。

「福祉」とは「人がしあわせによりよく生きる」という意味だそうです。

障がい福祉の分野で活動させていただいている私たちも、障がい者問題だけに取り組みの場ではなく地域の子どもたちや高齢者みんなが幸せによりよく生きるための地域づくりに少しでも貢献出来たらと思ひます。



編集後記

編集委員長 山口 昇次

昭和から平成に変わる頃の話です。当時米国西海岸のロスに駐在していました。その頃は日本でも米国でもいわゆるバブルの絶頂期でした。日本は世界トップクラスの経済大国と言われ、我々も鼻息が荒かったのか今にして思ひます。そんな中で週末は、同僚たちと時々ゴルフを楽しんでいました。ゴルフ場では数年前には見かけなかった韓国人ビジネスマンのゴルフアールを見るようになっていました。韓国もソウルオリンピックを経て経済も上向き、徐々に海外進出をしてきたのを見て、「奴らのマナーはなっていない」とか「ゴルフ場で大声で何を話とんねん」などと非難を口にしたものでした。その時は当たり前のことを言っていたと思つていたのですが、今になれば、あれは我々の傲り、彼らを見下していたのかと反省です。今でも普通の生活の中で無意識の内に他人を見下したり、自分の方が上やと傲つているのかと思う事があります。心せねば!

今回執筆頂いた皆様(敬称略)

山口 昇次
戸ノ内社会福祉連絡協議会会長
今西 誓
若王子社会福祉連絡協議会会長
奥村 清臣
社会福祉法人田能老人福祉会
春日苑理事長
福山 久美
尼崎市保護司会園田分会保護司
人権教育担当
尼崎市立小園小学校
小川満津美
民生児童委員
仲原 大輔
NPO法人やじろべえ理事